

『次の食材は お前かもしれない』

— 恐怖のブラック工場・完全告発録





おはようございます、
丸亀さん。
今日も定時は
……ありませんよ



几帳面な丸亀にとって、
ここは悪くない場所の
はずだった。



雨に濡れた夜の工場街。
冷えた蛍光灯の匂い。

乾いているはずの粉が、
生き物のように
肌にとわりつく。



早く、早く！
手が止まると検品が
検品通りません！



麵の匂いが甘い。
どこか、血のように感じた。

指先に残る、
ぬめりのある感触。





“次の食材”よ



冷蔵庫から出した
はずのの弁当が、
妙に温かい。

……これは、
何でしょう

あなたが作った分だけ、
ここの上は食べるの。
足りない分は……
選ばれる

足りない分は……
選ばれる

(粉ではない。
丸い粒が、
指の形になりかけて
いる……!!)

『生地の品質が
安定しない。
原因は一つ。』

『原因は一つ。
次の食材は
お前しれない』

工場運営管理マニュアル

真の意味	表面上の ペナルティ	品質項目
労働搾取	追加作業	こね不足
不正隠蔽	再調理	水温逸脱
食材化(死)	対象者は回収	作業停止

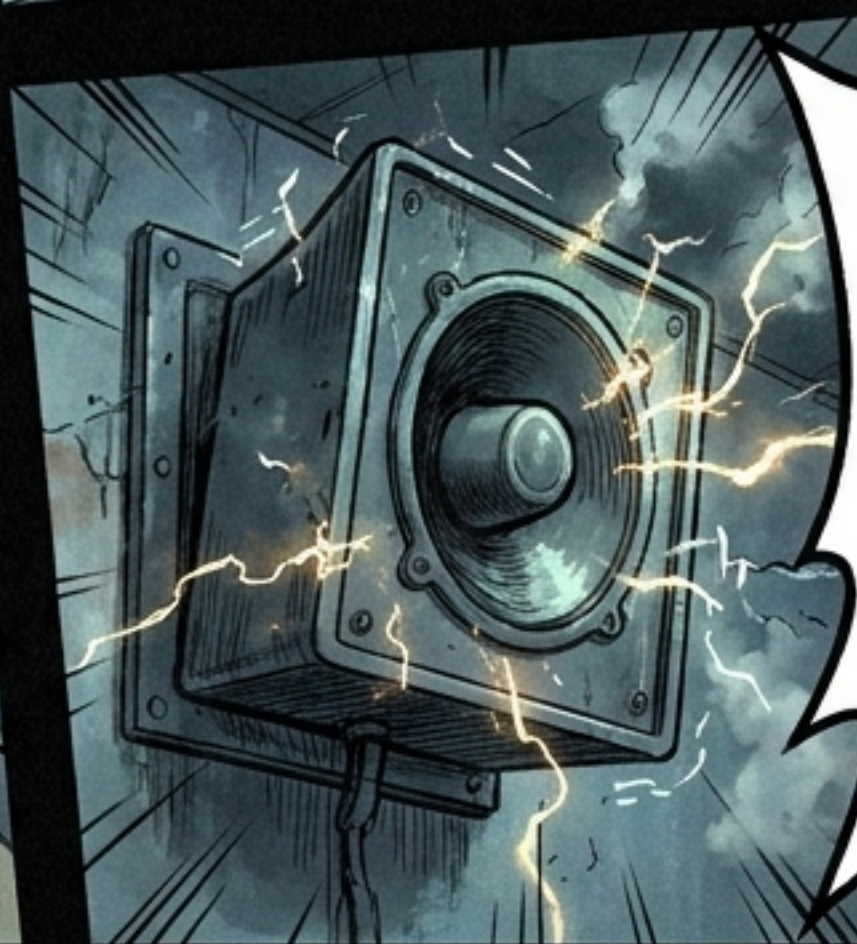
恐怖で止まるな。
恐怖を「計算」に変えろ。
があるなら、システムをハックできる。



管理番号の
規則性を把握。



丸亀。お前、
今朝から反応が
遅い。
品質 質の再調整だ




(マニュアル通りだ。
わざと遅くして、
動線を変える)



逃げ道はある。

逃げ道はある。
あとは、
そこまで運ぶ力だ。



湿った熱気。
そこに並んでいたのは、
麺を溶かす装置ではない。

液面の下で、人の記録のような
ものが細かく揺れている。

(昨日消えた先輩……
笑っていた廣瀬……！
……！)



使用権限が
ありません

(敵はバケモノじゃ
ない。
組織の裏側だ。
戦える！)

作業者のアクセス履歴。
すべて記録に残っている。

すべて記録に残っている。

身体が冷える。心臓がうるさい。それでも、走れ。



『品質が……
止まるな、止まるな!』



工場名、
管理番号、
内部記録。

送信

証拠の束が、
確かに人の手に
渡っていく――。

「ブラック企業の実態、
連続失踪事件として捜査――」

